

2026年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験科目名	専門試験（ 日本古典文化論 ）
出題の意図	<p>問題一は日本文学・日本文化研究に関わる分野から、その文学史・文化史的、あるいは国語史的問題に関する理解と知識を質すと共に、文章読解能力及び文章表現能力も併せ見るものである。</p> <p>問題二は日本古典文学研究における最も根本的な作品読解能力を問うものである。また、原資料を取り扱う能力を見るために変体仮名の翻字も課す。</p> <p>問題三は日本古典文学研究に必要かつ重要な能力である漢文読解能力を問うものである。</p>

2026 年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 日本古典文化論 全4枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 4枚、解答用紙 3枚を配付する。

問題 1

次の文章は、浅田徹「勅撰集の享受史」の一節である。読んで「古歌の享受」について時代を問わず各自の観点から自由に論じよ。

*問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、左記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 『特別展 やまとうた二千年—古今集から新古今集の名筆をたどる—』図録（五
島美術館、二〇〇五年一〇月、一二四～一二五頁）

2026年度（前期）

日本古典文化論

全4枚のうち2枚目

問題二

次の文章は安楽庵策伝『醒醉笑』(慶安元年版)の一話である。読んで設問に答えよ。

情ふかき児のもとへ。折くかよふ僧ありし。暮にをよびそと来れり。児にこやかに夏衣よくこそあれば。その言葉を聞くとひとしく。Aふいと立ちて行。児の方より人をつかはし。まつかへれとよびもとすに。僧立かへりぬ。何とてものもいはず。いなれしや。夏衣と始ておほせられしまゝ罷出候き。いかなれはと。とはる。されは新古今に

素性法師

おしめどもとまらぬ春もある物を
よばぬにきたるなつ衣かな

とも候。此趣存知あはせてなりと。なくく申されければ。児聞て中くの事や

夏衣よくこそあれば
人をつかはし

といふ本哥にて。いひつるものをとあるにぞ。B僧かたじけなしとも。

問一 傍線部Aについて、このように行動した理由を説明せよ。

問二 本文中のくずし字の箇所を翻刻せよ。

問三 傍線部Bについて、ここまでの展開を踏まえて、どのようなことか説明せよ。

問四 作者と作品について、文学史上の意義、作品の特徴などを述べよ。

問題三

次の文章は『世説新語』の一節である。読んで設問に答えよ。

秦元中、有一師從遠來、莫知所出。云、「人命^A必終、有生樂代者、則死者可生。若逼人求代、亦復不過少時。」人聞此人咸怪其虛誕。王子猷・子敬兄弟、特相和睦。子敬疾屬續、子猷謂之曰、「吾才不如弟、位亦通塞、請以余年代弟。」師曰、「夫生代死者、^B以己年限有余、得以足亡者耳。今賢弟命既必終、君侯^C算亦當盡。復何所代。」子猷先有背疾、子敬疾篤、恒禁來往。聞亡、便撫心悲惋、都不得一声、背即潰裂。^C推師之言、信而有實。

注 師 人を教え導く者。

王子猷・子敬 王徽子・猷子。ともに王羲之の子。中国東晋の書家として知られる。

屬續 人の死に際、臨終。あるいは危篤状態をいう。

君侯 貴人を呼ぶ称。

問一 傍線部 A を平仮名だけの書き下し文に改めよ。

問二 傍線部 B をわかりやすく訳せ。

問三 傍線部 C はどういうことかわかりやすく説明せよ。